

## 5. 普及・広報活動

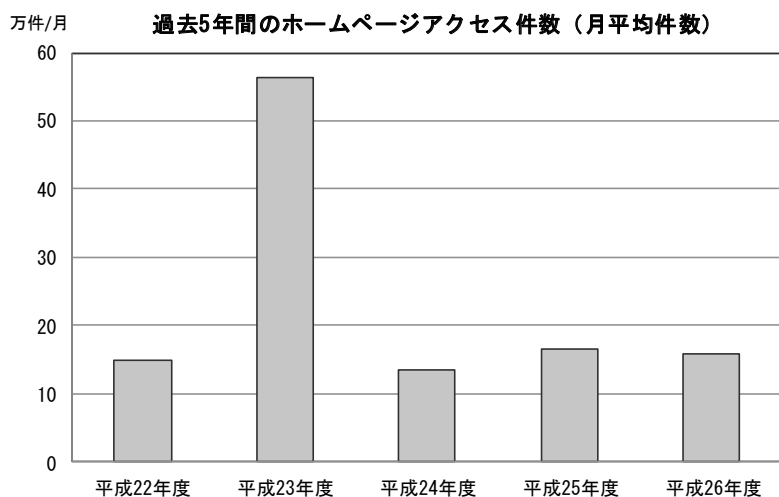
気象研究所では、研究の内容や業務について広く一般の方々の理解を促進するため、気象研究所ホームページやパンフレットなどの媒体を通じて情報を発信している。

また、施設の公開は気象研究所が独自に実施しているもののほか、他省庁の主催する行事への協力やつくば市等の行事と連動し、効果的な普及・広報活動に努めている。

### 5.1. ホームページ

気象研究所のホームページは、気象研究所の研究活動や内容を内外に向けて積極的に発信することを目的として、平成7年12月から運用し、平成26年6月に掲載内容を拡充してリニューアルを行った。

気象研究所ホームページは、気象庁のホームページや関連研究機関からリンクが張られており、平成26年度のアクセス件数は月平均で約15.7万件であった。



※平成23年度はログ解析方法が異なる



ホームページアドレス：<http://www.mri-jma.go.jp>

### 5.2. 施設公開等

#### 一般公開（科学技術週間）

気象研究所では、同じ気象庁に属する観測部観測課所属の気象測器検定試験センター及び高層気象台とともに、科学技術に関する国民の関心と理解を深めるため、科学技術週間<sup>†</sup>の行事の一環として一般公開を行っている。この一般公開では研究・観測施設の公開、ビデオ放映やパネル展示により当所業務の紹介を行うほか、職員自らによる講演や講義によりこれまでに得られた最新の知見を来場者に紹介している。

平成26年度は4月16日（水）に行い、133名の来場者があった。

<sup>†</sup>科学技術週間

科学技術に関し、広く一般国民の関心と理解を深め、わが国の科学技術振興を図るために設定されている週間。例年、発明の日（4月18日）を含む週が科学技術週間として設定される。

## お天気フェア

気象研究所では、気象測器検定試験センター及び高層気象台と共同で、毎年夏休み期間中に「お天気フェア」を開催している。この「お天気フェア」では、研究・観測施設の公開やビデオ上映のほか、研究部ごとに特徴を生かしたブースを設置し、実験や解説を行っている。

なお、このお天気フェアは、つくば市教育委員会が主催する研究機関等の施設見学スタンプラリー「つくばちびっ子博士」の指定イベントとして登録されている。

平成26年度は、8月6日（水）に以下の内容で開催し、2,810名の来場者があった。

	企画内容（タイトル）	主催官署・研究部
講習	天気図講習会	予報研究部
施設公開	低温実験施設	予報研究部
	回転実験施設	環境・応用気象研究部
	風速計検定用風洞施設	気象測器検定試験センター
見学	オゾンゾンドの観測の見学	高層気象台
工作	パラシュートを作ろう	高層気象台
	いろいろなパラシュートをとばしてみよう	高層気象台
体験	放球体験：気球を空にあげてみよう	高層気象台
	3Dパズルで学ぶ火山	火山研究部
	赤外線で温度を測る	火山研究部
	地震の音を聞いてみよう	地震津波研究部
	マグニチュード体験	地震津波研究部
展示	高層気象観測などのパネル展示	高層気象台
	誕生日のお天気カード	気候研究部
実験	紫外線を測ってみよう	高層気象台
	雨粒の形を見てみよう	環境・応用気象研究部
	空気砲であそぼう	気候研究部
	二酸化炭素と海の酸性化	海洋・地球化学研究部
	竜巻発生装置	台風研究部
	台風で強風が吹くしくみ	気象衛星・観測システム研究部 台風研究部
その他	クイズラリー	

## 施設見学

定期的な一般公開（科学技術週間、お天気フェア）のほか、主として学校教育の一環として行われる校外授業や海外からの来訪者などを対象に、施設見学の対応を行っている。平成26年度は、座学と実験施設の見学を組み合わせた「降水」、「竜巻」、「地震・津波」、「環境」、「地球温暖化」の5つのコースを設定した。平成26年度は27件の見学を行った。

### 5.3. 他機関主催行事への参加

つくば市などが主催する、科学技術の普及に関する行事に参加・協力し、気象研究所の研究活動の紹介や、気象・気候・地震火山に関する知識の普及活動を行っている。平成26年度は、下記の行事に参加・協力した。

平成26年12月28日 平成27年1月21日	<p>研究員による小中学校出前授業サイエンスQ（筑波研究学園都市交流協議会主催）に参画</p> <p>テーマ：目に見えない光 赤外線を「見て」みよう</p> <p>出前講座先：つくば市立要小学校</p> <p>研究員：山本 哲（環境・応用気象研究部）</p> <p>テーマ：怖い雷雲をとらえる新しいレーダー 「フェーズドアレイレーダー」</p> <p>出前講座先：つくばみらい市立伊奈中学校</p> <p>研究員：吉田 智（気象衛星・観測システム研究部）</p>
平成27年1月21日	<p>「SATテクノロジー・ショーケース2015」（(財)茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー、つくば国際会議場主催）の共催機関として参画し、気象研究所の紹介パネル展示を実施</p>
平成27年3月15日～ 3月17日	<p>第7回日本地学オリンピック、地球にわくわく2015(NPO 法人地学オリンピック日本委員会主催)の後援機関として参画</p>
平成27年3月23日	<p>第4回科学の甲子園全国大会のエキスカッションに協力</p>

このほか、つくばサイエンスツアーオフィス（(財)茨城県科学技術振興財団）、筑波研究学園都市研究機関等広報連絡会議（事務局 つくば市市長公室広報課）、筑波研究学園都市交流協議会などに参画し、つくば市内の研究機関として広報活動に寄与している。

### 5.4. 報道発表

平成26年7月25日	<p>平成26年台風第8号にともなう沖縄本島での大雨の発生要因 ～冷氣プールによる降雨域の停滞と断熱冷却による不安定の強化～</p> <p>概要：7月9日、台風第8号にともなう沖縄本島で大雨が発生し、大きな災害をもたらされた。この大雨は、台風の南側で線状降水帯によって生じていた。線状降水帯は、強い降水により生じた冷氣プールに南西から継続して流入していた暖かく湿った空気が持ち上げられ、風上で次々と積乱雲が発生したこと（バックビルディング）で形成・維持されていた。強い降水は、台風の西方から流入した乾燥空気が上昇することで生じた断熱冷却により上空が冷え、大気状態がより不安定になったことで生じていた。数値シミュレーションからも上記による大雨の発生や維持が確認できたが、このような大雨を定量的に予測するためには、更に研究を進める必要がある。</p> <p><a href="http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H26/260725/T1408_heavyrainfall.html">http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H26/260725/T1408_heavyrainfall.html</a></p>
------------	--

平成 26 年 9 月 9 日

平成 26 年 8 月 20 日の広島市での大雨の発生要因 ～線状降水帯の停滞と豊後水道での水蒸気の蓄積～

概要：8月20日、広島市周辺で大雨が降り、大きな災害が発生した。広島と山口の県境付近で積乱雲が次々と発生し、複数の積乱雲群が形成されていた（バックビルディング形成）。その積乱雲群が連なった線状降水帯が停滞することで、大雨となった。積乱雲の発生場所は、日本海上に停滞していた前線から南側約300kmに存在していた上空の湿潤域の南端に位置していた。その場所には、豊後水道上で蓄えられた大量の下層水蒸気が広島市付近に局所的に流入し、積乱雲を繰り返し発生させていた。

[http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H26/260909/Press\\_140820hiroshima\\_heavyrainfall.html](http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H26/260909/Press_140820hiroshima_heavyrainfall.html)

## 5.5. 国際的な技術協力

気象研究所では、気象庁として加盟する世界気象機関(WMO)の枠組みの中で、WMOが行う様々な研修に講師として研究者を派遣するほか、開発途上国などからの研修員を積極的に受け入れている。また、独立行政法人 国際協力機構(JICA)が行う政府開発援助のもとで行う研修においても、気象に関する幅広い技術の指導や支援を行っており、国際的な技術協力を行っている。

そのうち、気象研究所で平成26年度に受け入れた研修は以下のとおりであり、来訪者及び対応者は、8.3「海外研究機関等からの来訪者等」に記載している。

- ・ JICA 集団研修「気候変動への適応」
- ・ JICA 集団研修「気象業務能力向上」
- ・ JICA 課題別研修「アジア地域 水災害被害の軽減に向けた対策」

また、地震火山分野にあつては、平成7年以来、(独)建築研究所が行う「国際地震工学研修」グローバル地震観測コースにおいて、地震波解析による核実験識別法の講義等を行うことを通じて、包括的核実験禁止条約の枠組み推進に貢献するとともに、平成23年度からは同研修の個人研修にかかる研修生の受け入れも行っている。